

平成22年 第4回（定例）高鍋町議会 会議録（第4日）

平成22年12月21日（火曜日）

議事日程（第4号）

平成22年12月21日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

（一般質問通告一覧表）

順位	質問者	質問事項 質問の要旨	質問の相手	備考
4	16番 津曲 牧子	1. 子宮頸がんについて ①子宮頸がんの検診率の状況と予防ワクチンの個人負担金の助成についての考え方を伺う	町長	
		2. 子育て支援について ①昨年より実施された新しい体制の現状と子育て家庭における反応について伺う	町長	
5	2番 徳久 信義	1. TPP問題について ①TPP参加をどのように考えるか ②本町の進むべき方向、あるべき姿、課題等 ③人の移動も自由化されれば医療介護など福祉サービスも影響を受けるのでは	町長	
		2. 口蹄疫対策について ①終息宣言後のあるべき姿 ②次世代にどう伝える	町長 教育長	
		3. 教師の資質向上について ①「教職員人材育成プラン」の内容は	教育長	
		4. 町道の整備状況について ①都市計画道路宮田上江線の今後の計画は ②中島小丸出口線スクールゾーンの整備は ③権現前線・中川池下屋敷北線の整備計画	町長	
		5. 竹鳩橋整備について ①県道格上げの進捗状況は	町長	
		6. 墓地の整備について ①高鍋町の墓地の現状について ②整備計画について ③坂本坂墓地の状況は	町長	

出席議員（16名）

1番	水町	茂君	2番	徳久	信義君
3番	岩崎	信や君	5番	緒方	直樹君
6番	池田	堯君	7番	中村	末子君
8番	黒木	正建君	10番	後藤	隆夫君
11番	青木	善明君	12番	松岡	信博君
13番	永友	良和君	14番	柏木	忠典君
15番	八代	輝幸君	16番	津曲	牧子君
17番	時任	伸一君	18番	山本	隆俊君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

議会事務局長	壱岐	昌敏君	事務局補佐	野中	康弘君
議事調査係長	山下	美穂君			

説明のため出席した者の職氏名

町長	小澤	浩一君	副町長	川野	文明君
教育長	萱嶋	稔君	教育委員長	児玉	安夫君
農業委員会会長	渡瀬	俊弘君	代表監査委員	黒木	輝幸君
総務課長	間	省二君	政策推進課長	森	弘道君
建設管理課長	芥田	秀則君	農業委員会事務局長	松木	成己君
産業振興課長	長町	信幸君	会計管理者兼会計課長	原田	博樹君
町民生活課長	三浦	敏君	健康福祉課長	井上	敏郎君
税務課長	田中	義基君	上下水道課長	森	俊彦君
教育総務課長	黒水	日出夫君	社会教育課長	三嶋	俊宏君

午前10時00分開議

○議長（山本 隆俊） 只今から本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（山本 隆俊） 日程第1、一般質問を行います。

20日に引き続き、順番に発言を許します。

まず、16番、津曲牧子議員の質問を許します。

○16番（津曲 牧子君） 16番。皆様、おはようございます。このたび町民の代表として議会に送っていただき、こうして一般質問ができることを心から感謝申し上げます。今後は、高鍋町の発展と町民の皆様の生活を守るために精いっぱい努力していくことをお約束しまして、早速質問を行います。

現在、高鍋町は、御承知のとおり子供がにぎわうまちづくりを目指して、町民一人一人が我が町のことを思い、子供から高齢者の方まで、だれもが住みたいと思えるまちづくりを展開し元気で活力あるまちづくりを展開して、次世代を担う子供たちに引き継いでいくために、しっかりとした基盤づくりと、より一層の児湯の中心的存在であることをアピールしているところです。

この方針を私は念頭に置き、質問の1つ目をいたします。現在、20代から30代の女性にふえている子宮頸がんの検診率のことです。欧米に比べ、日本は受診率が低く、県民の意識レベルも決して高くはありません。本町では、どれぐらいの検診率なのでしょう。

そして、予防ワクチンが昨年の12月に日本に認可されてから、本町で何人の方が自己負担で個人接種を受けているのでしょうか。ワクチンの個人負担金は、本町の医療機関で3回で5万円前後と、とても高額です。接種したくても、なかなかできない現実があります。予防ワクチンの個人負担の助成について、どのように町長はお考えでしょうか。

2つ目は、子育て支援事業についての現在の本町の状況と町民の利用の程度と、実際に生活の中でどのように役立っているのでしょうか。そして、子育て家庭の反応は、どのように町としては把握されているのでしょうか。以前から継続されている子育て支援事業は、計画どおりに順調に進んでいるのでしょうか、お伺いいたします。

あとは、発言者席にて行います。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。おはようございます。

お答えいたします。まず、子宮頸がんについてであります。過去の子宮頸がん検診の受診率の状況については、平成19年度14.2%、平成20年度9.2%、平成21年度17%となっております。なお、平成21年度からは女性特有がん検診を開始し、国が定める一定年齢の対象者にクーポン券と健康手帳を発送し、子宮がんと乳がん検診の案内を行っているところであります。また、現在、町内の医療機関では、19歳以上の7名の方が子宮頸がんワクチンの接種を受けている状況であります。

次に、子宮頸がん予防ワクチン接種の助成及び取り組みについてであります。国の補正予算成立に伴い、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金事業により、平成23年度は、子宮頸がん等のワクチン接種に対し自己負担を1割とし、残りの9割を国が2分の1、町が2分の1負担する事業を実施する方向で検討しているところであります。

次に、子育てに関する事業についてであります。従来からの保育事業を初め、各種事業を行い、多くの方々に利用していただいております。子育て世帯の経済的な負担を軽減するものとしましては、小学校入学前までの医療費を助成する乳幼児医療費助成や、昨年

度より支給要件が拡充されました子ども手当の支給等を実施しております。

また、子育てについての悩み相談を行い、子供を持つ保護者の心身の負担軽減に努めております。また、今年度から、さらなる子育て支援の充実を図るため、新たに取り組んでおりますのが、「子育て支援ルームきらきら」であります。この事業は、NPO法人A Iの運営により、町内の空き店舗を利用して子育て支援事業を実施するものであります。子供の一時預かりを初めとする子育てに関するサービスの提供のみならず、地域における子育てを支援するための活動を幅広く展開していただいております。

そのほか、今年度からファミリーサポートセンターの利用料助成も実施しております。1時間当たりの利用に500円の個人負担が必要でありましたが、そのうちの300円を高鍋町が助成することとしております。これらの事業をより多くの皆様に利用していただくために、今後もあらゆる機会を通じて広報を行うとともに、住民の皆様のニーズにお答えするために国県の補助事業等を最大限に活用しながら、子供がにぎわうまちづくりを目指して子育て支援事業の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 16番、津曲牧子議員。

○16番（津曲 牧子君） 16番。子宮頸がん検診率の状況について、再度答弁をお願いいたします。検診率が20年度92%、21年度17%とのことですが、失礼いたしました。20年度9.2%、21年度17%とのことですが、これは極めて低い検診率であり、なぜこのような結果が出ているのか、町のほうで原因を調べておられるなら、その原因と対応策も一緒にお聞かせください。

それから、国の平成22年度子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金交付要綱に基づき、本町では検討しているという答弁でしたが、宮崎市や延岡市では、自己負担1割分を市が助成していく方向で決定しています。我が町の子育て支援をさらに推進するためにも、ぜひとも無料化をお願いいたします。

今後の医療費抑制にもつながり、高鍋町に若者が定住し、にぎわう町になっていくことと思っておりますので強く要望いたします。答弁、お願いいたします。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 全額負担ということでございますが、7番の議員さんにも申し上げました。確かにそれがベターな方向かもしれませんが、これだけにかかるというのが、私たちの今高鍋町に課せられた財政的な負担等が困難と見ております。

そして、1割は負担していただいて、そしてみんなが平等にそういった、何ていいですかね、ものが受けられるような制度であってほしいと。やはり、そういうことの観点から、国の施策どおり1割負担で、あとの9割の2分の1を町が負担するというところで御理解を願いたいと思っております。

○議長（山本 隆俊） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（井上 敏郎君） 健康福祉課長。1番目の御質問でございました子宮頸がん受診率が低い原因と、その対応策ということでございますが、まず、受診率の関係です

けれども、20代、30代の出産経験のない若年層の方にとっては、婦人科での受診に抵抗があるように思われます。これらの方々に対しましては、クーポン券等、健康手帳の発送が受診率の向上につながっている——20年度から21年度の増加率につながっているのではないかとこのように考えております。今年度も徐々に受診者が増加している状況でございます。

現在、乳幼児健診時や就学児健診の保護者会、それから出前講座など、機会あるごとに検診の必要性、それから受診の仕方などのお話をさせていただいておりますが、今後も受診率向上に向けてさらなる努力をしていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（山本 隆俊） 16番、津曲牧子議員。

○16番（津曲 牧子君） 16番。今、答弁がございましたように、検診を必要とする若い世代の方は、以前に比べて本当に自分で自分の体を守るっていうこと、いろいろといろんな方面から勉強されていると思います。本当に、そういう意識は非常に高くなっている。私も若い人のお話を聞きながら、そう思っております。

そして、また本当に、今後とも行政の方たちの、本当に啓発運動を通して、本当に専門の方がきちんとした説明を若い世代の方にしていただければ検診率のアップにもつながると思いますし、また医療費抑制のための予防ワクチンの接種ということにもつながっていくと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

続いて、子育て支援の対策について、これもまた要望なんですけれどもお願いいたします。ファミリーサポートセンターの利用料金を300円、町が補助していただいている現状は、子育て家庭の親として、核家族が進む中で緊急の事態が起こったときの対応の面や心身の面からも非常にありがたいものです。行く行くは、これも無料化にされて利用者がふえ、子供の健全な成長につながる結果になれば、本当に結構なことだと思います。

町長の答弁にもありましたが、本町の財政の状況も大変厳しいことはもう重々承知でありますけれど、外の自治体にちょっと目を向けてみますと、本町と同じくらいの人口の町で、急速に進む少子化対策として、保育園の保育料、幼稚園の授業料、給食費の無料化を実施している自治体もございます。臨床の知に学べという言葉がありますが、ほかの地域が行っているまちづくりや地域振興のケースを、みずからの地域を活性化させる初めの一歩としまして、そのこともできると思います。

幼い子を抱え生活のため、働かざるを得ないお母さんたちの訴えにも耳を貸していただき、その現場にも出向いていただき、今後は子育て支援ルームきらきらの稼働状況を注目しつつ、若いお母さんたちが、本当の意味で気軽に利用できる体制をつくっていただきたいと強く要望しております。お願いばかりになりましたけれども、これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

これで、津曲牧子議員の一般質問を終わります。

日程第1. 一般質問

○議長（山本 隆俊） 次に、2番、徳久信義議員の質問を許します。

○2番（徳久 信義君） 2番。おはようございます。では、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず最初に、T P P問題についてであります。本町の基幹産業は農業であることには異論がないと承知しております。しかし、菅政権は環太平洋戦略的経済連携協定、いわゆるT P Pへの参加を模索しております。T P P参加によって、農業政策部門で関税が撤廃されればどうなるのでしょうか。関税撤廃の農作物が日本に雪崩を打つように輸入された場合、どうやって日本の農業を守るのでしょうか。

関税撤廃の中で農業を守ることは無理だと私は考えます。農業を基幹産業とする本町にとってもT P Pへの参加は、町の存廃をかけた正念場であり、農業や地域崩壊の危機を回避する明確なビジョンが示されないまま協議に参加することには反対であります。

町長は、安心・安全のまちづくりを標榜しておられますが、高鍋町の将来を見据え、現政権の熟議されていないこの拙速とも言えるT P P参加の問題についてどのような所管をお持ちなのかお尋ねいたします。

次に、口蹄疫対策についてであります。4月20日に発生した法定家畜伝染病の口蹄疫、緊迫と疲労と何の生産も生み出さない。あるのは牛さん、豚さんの殺処分の報道が大半を占めておりました。約100日間、町内、郡内、県内はある種の戦争状態でもあり、口蹄疫撲滅に携わった人たちの心の中にはむなしさのみが残ったのではないかと思います。しかし、反面、町民が結束して戦後最大の難と言われる口蹄疫撲滅に立場、職種の違いはあっても、協働、いわゆる三者の力をプラスしてともに働くことで立ち向かい挑戦したことも認識され、協働の意義が確認されたことも事実であると考えます。口蹄疫被害を町長、教育委員会、農業委員会はどのように総括されるのかお伺いいたします。

次に、教師の資質向上についてであります。県は、平成19年に教職員人材育成プランを発表しましたが、どのような内容なのか、お伺いいたします。

次に、町道の整備状況についてであります。今回の選挙におきまして遊説する中でいろいろな相談を持ちかけられております。その中で、切実な地域の問題として浮上してくるのが、町道整備の相談であります。まず、都市計画道路、宮田一上江線の現在の東平原信号から小丸出口に抜ける道路の新設は、今後どのように計画されているのか、お伺いいたします。

次に、竹鳩橋の整備についてであります。3月の一般質問でお尋ねしましたが、竹鳩橋かけかえの取り組みについて、竹鳩橋に関しては、期成同盟会が毎年頭出しされております。竹鳩橋にかかる道路は町道であるがゆえに、県道に格上げし、それから話を進める内容だったと聞いておりますが、県道の格下げ、格上げはどのように推移しているのかお伺いいたします。

次に、墓地の整備についてであります。高鍋町の墓地の現状はどのようになっているの

か。団塊の世代が高齢化していることや新しく高鍋についての住みかを求めて居住されている方などのことを考えると、現在の町営の墓地だけで不足はないのか。また、10年先、20年先のことを見通すと、新規の墓地建設を現段階から計画しておく必要が要るのではないかお聞きします。

あと、T P P問題、本町のすべき方向、あるべき姿、課題等、3、人の移動も自由化されれば、医療、介護など、福祉サービスも影響を受けるのでは。

口蹄疫対策について、次世代にどう伝える。

町道整備について、中島小丸出口線スクールゾーンの整備、権現前線、中川池下屋敷北線の整備計画、そして坂本坂にある墓地の状況はにつきましては、発言者席にて行います。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。お答えいたします。まず、T P P参加についてであります。T P P参加が当町産業に与える影響は、農業を中心に、甚大なものとなるのではないかと危惧しているところであります。仮にもT P Pを締結されれば、農家所得が補償されても輸入が増大し、農業、農村が持つ多面的機能が失われ、関連産業は廃業し、地方の雇用が失われていく日本農業が破滅する重要な問題であります。

このため、宮崎県町村会においてT P P参加反対の表明を行い、政府、国会議員等に対しT P P交渉参加に反対する緊急要請を行ったところであります。

次に、口蹄疫の総括についてであります。4月20日の口蹄疫発生確認以来、防疫措置等において、町民の皆様方等の御協力をいただき、8月27日に終息宣言が出されました。この口蹄疫が当町に及ぼした影響は、町内の約3万4,000頭に及ぶ牛、豚等の全家畜処分にとどまらず、畜産関連産業や飲食業、観光業等、町内の経済全体に甚大な影響を及ぼしました。今後は、ゼロからの再生となった畜産においては、新たな畜産の再興を、町全体としては、以前よりも元気で明るい高鍋を目指して頑張っていかななくてはならないと考えております。

次に、都市計画道路、宮田一上江線の今後の計画についてであります。今年度で都市計画道路小丸川田線が完了いたします。今後、道路の規模を含めた都市計画道路の見直し作業を行う予定にしておりますので、都市計画道路の計画は現段階では未定であります。

次に、町道川田竹鳩線の県道格上げの進捗状況についてであります。竹鳩橋等整備促進期成同盟会において、架け替えの要望は行っておりますが、県道格上げにつきましては、まだ具体的な要望活動は行っておりません。現在、竹鳩橋と整備促進期成同盟会で、県道昇格に向けて協議を行っているところであります。今年度は、口蹄疫の影響により協議が進んでない状況であります。

次に、高鍋町の墓地の現状についてであります。現在、町営の墓地として唐木戸霊園があり、区画数は319区画となっております。その他、田の上、元祇園、蚊口を初め、大小数多くの村墓地が点在しておりますが、こちらにつきましては、それぞれの管理組合や地区などにより管理を行っていただいているところであります。

次に、整備計画についてであります。唐木戸霊園につきましては、現在、あいている区画はない状況であります。当面の間は、増設可能な区画の調整や村墓地の案内を行ってまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 教育委員長。

○教育委員長（児玉 安夫君） 教育委員長。口蹄疫をどのように総括するかのお尋ねであります。未曾有の大災害となった口蹄疫は、教育の分野にも大変大きな影響を及ぼしました。町内の施設を利用したスポーツ、芸術、文化活動のほとんどが中止を余儀なくされ、町の活気が失われていきました。また、修学旅行の延期など、学校行事等の影響にも大きなものがありました。

しかし、一方で、町内の自治公民館が結束して防疫作業に参加されるなど、多くの方々の支援があり、行政と町民が協力し合って防疫対策に取り組む場面が随所に見られました。また、学校では、下足の消毒の励行を初め、千羽鶴を折ったり、募金活動を行うなど、災害に遭われた皆様への支援活動も生まれました。そして、全国からは、たくさんの励ましのお手紙を当町の子供たちにもいただきました。

このような体験から、子供たちは多くのことを学んだと思います。法定伝染病の恐ろしさや社会全体が協力し合って、防疫対策に取り組む姿、被害に遭われた方々の苦しみや悲しみ、全国からの励ましの手紙などから、子供たちは人の温かさ、協力し合う大切さなど、多くのことを肌で感じ学び取ったのではないかと思います。これらの体験から得たものは、子供たちが今後成長していく過程で必ず役立ってくれるものと考えております。

○議長（山本 隆俊） 農業委員会会長。

○農業委員会会長（渡瀬 俊弘君） 農業委員会会長。口蹄疫被害の総括についてお答えいたします。

当委員会の口蹄疫対応につきましては、埋却地の確保に対する協力をするとともに、農地保有合理化事業を利用した埋却地の所有権移転等の事務を進めてまいりました。

お尋ねの口蹄疫被害の農業委員会における総括についてでございますが、町全体では、牛、豚、約3万4,000頭が殺処分をされるという高鍋町を震撼させるような非常事態となり、畜産農家の4名の委員も被害を受けました。今後の再開に向けた農地の動向が気になりますが、現在のところ、大きな動きはないようでございます。

今回の口蹄疫埋却地として、社団法人宮崎県農業公社が買い上げを予定している約11.6ヘクタールの農地につきましては、10年後には、県、町とともに買い手を捜し、農地として有効利用に努めてまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 教育長。

○教育長（萱嶋 稔君） 教育長。県が策定いたしました教職員人材育成プランの内容についてお答えいたします。この人材育成プランは、児童生徒に高いレベルの教育を提供するために求める教師像として、愛情と情熱、高い専門性、幅広い社会性、マネジメント力、これらを持った教師を掲げております。

また、プランの推進に当たっては、単に研修といった一つの側面のみを見直すのではなく、大学における教員養成、教職員の採用、研修、教職員の評価、人事異動、任用、環境等人材育成に重要な各要素をトータルに見直し、中長期的な視点から一貫した理念に基づいた人材育成を行うとしております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。食料・農業・農村基本計画で、食料自給率50%を目指す目標を掲げておきながら、今回、TPP参加に伴う関税撤廃で14%まで落ち込む試算を示し、その差を埋める対策がまだ明示されておられません。TPP問題を踏まえ、本町の農業の進むべき方向、あるべき姿、克服すべき問題等をお聞きします。

また、外国から農産物が流入してくることを嘆くことよりも、高鍋町独自、あるいは児湯圏域で外国に打って出る農業の確立のために行政、JA、農業大学校、農高、商工会議所などを含めたプロジェクトチームを立ち上げ、海外への強気の農業戦略を展開するお気持ちはないのか、あわせてお伺いいたします。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。お答えいたします。TPP問題も踏まえ、本町の農業の進むべき方向、あるべき姿、克服すべき問題等についてであります。食料・農業・農村基本計画での食料自給率50%を目指すこと、あるいはTPP参加に伴う関税撤廃の問題については、いずれにおいても国民が食料安全保障の見地に立って議論し結論を導く問題ではないかと考えております。

農業のあるべき姿であります。農業者の立場になって考える場合、経済活動としての農業、自然に触れ合う喜びを得るための農業等あるかと考えますが、経済活動としての農業としては、基本的に、農産物価格、品質が国際的に通用する農業を目指すべきであり、米、麦、露地野菜などにあつては経営規模の拡大が必要であり、また霜降り肉、マンゴー、キンカン等のような高品質農産物にあつては、生産拡大が必要であります。

また、自然に触れ、土に触れる農業の中に喜びを目指すのか。これは高齢農家、兼業農家、その他ありますが、農産物の対面販売、いわゆる顔の見える農産物販売や有機農法等による付加価値をつけた農産物の販売を目指した農業を行うべきではないかと考えております。

いずれにいたしましても、土地改良事業や流通の問題など、改善すべき課題が山積してあります。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。今町長言われましたけども、この例えば高鍋の今までつくられてきた農作物で、海外戦略といったところで海外へ自信を持って出せる何かがあるのかなというふうに思うんですけども、例えばこれだったらいけるんじゃないかなというものがあれば教えていただきたいんですが。

○議長（山本 隆俊） 産業振興課長。

○産業振興課長（長町 信幸君） 産業振興課長。国際的な商品という部分に立ちますと、町内の場合は、牛肉の一定レベルA4、A5というような品質のものについては、高鍋町だけでは無理ですけれども、宮崎ブランドとしての対応は可能ではないかと考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。それは肉という部分のどこなんですけども、例えば野菜なんかはどうなんですか。

○議長（山本 隆俊） 産業振興課長。

○産業振興課長（長町 信幸君） 産業振興課長。過去に野菜にかかわる輸出というような問題について検討した経緯もございますけれども、このTPPにかかわる影響を受ける作物の中に本町の主力でありますキャベツ、あるいは施設野菜というものは含まれておりません。少なくとも海外に向けて打って出るとは困難でありましょうけれども、国内に向けてはその可能性がある。それは、反面、ひっくり返してみますと、海外からも入ってくる要素が、その鮮度とかいうような意味でなかなか難しい作物もあるというふうに理解をしているところでございます。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 例えば、キャベツなんかは、収穫して、大体何日ぐらい常温の状態で腐ると言ったらちょっとおかしいんですけども、もつのかなと。それはいかがですか。

○議長（山本 隆俊） 産業振興課長。

○産業振興課長（長町 信幸君） 産業振興課長。例えばの話でございますが、キャベツの性格上、一枚一枚の葉をはげば、かなりの期間もつものでございます。一般的に、収穫後、1週間程度のところだろうと思えます。

ただし、消費者は、そのようなものを求めておりません。夏になりますと、冷蔵庫に入れた、予冷された品物というようなものを求めておりますから、もつもたないというようなことではなくて、やはり収穫されたものを直ちに台所に届けるような対応が必要かと、それが国際的にも勝てる要素ではないかというふうに考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。例えば、犬が食べるキャベツ、本当においしければ犬はキャベツ食べるんですね。これは、いろんなところで実証されたことはあるんですけども、そういったおいしいものをつくるこの農業、これが私は一つのあり方かな。

この問題は、10年前でしたかね、ウルグアイ・ラウンドの問題がありまして、やっぱり同じような問題を出しました。しかし、それから考えると、農業のそういったものをつくるということに対しての執念、そういったものがどうだったのかなあというちょっと私は思いしてるんですね。でも、あれから、それから後、高鍋のキャベツは非常に全国的にも名を上げてきたというふうに私は理解してるんですね。だから、それもう一步踏み込んださっき言いましたように、犬も食べるキャベツみたいなキャッチフレーズでの、この取

り組み、そういったものはできないのかなというふうに考えますけどもいかがですか。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。お答えいたします。今、議員の申されるように、本当に多種多様な方がとか、動物も食べるようなものというのがあるかもしれません。しかし食料となりますと、なかなか農家の方々も、そういった面には移行できないところがあるんじゃないかと私は思っております。私も、代々そういった青果業等をやっておりましたが、そこで3年前から始めたのが真空予冷庫ですね。これを活用いたしまして、なるべく遠くに運べるような消費地に運べるようなことをやっておるんですが、なかなか付加価値がついてまいりません。

大変、今先ほど課長が申しましたが、生鮮品でありますので皮をむいたり何たりすると、もうなかなか売れないということでもありますので、その辺もよく考えて、私たちも農家の方々と一緒になって、そういったおいしいものはつくっていくという覚悟でおりますが、どこまでそれができるのかといいますと、反別が少なればできます。反別が多くなるとなかなかできないのが事実ではないかと思っておりますので、その辺も御理解を願いたいと思っております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。そしたら口蹄疫のほうに移りたいと思います。8月27日、午前零時をもって終息宣言が出され、以来、ピンチをチャンスにと復興へ向け、宮崎県は力強く動き始めました。しかし、人間の記憶は時間がたつにつれ、その記憶は遠のいていきます。それは、10年前にも宮崎で発生した口蹄疫を見ても明らかではないでしょうか。

第二次世界大戦が終了される8月15日は、日本における終戦記念日として、将来にわたる不戦を誓い確認する日として設定してきました。今回、私は、口蹄疫宣言の日は、終戦記念日に相当する日だと私は考えます。

そこで伺いますが、終息宣言が出された8月27日を仮称、高鍋明倫の日と定めて、町民が行政とともに地域の問題の解決に向けて取り組む協働の意義を確認し合う日として後世に伝承していくべきだと考えますが、町長の御所見をお伺いします。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。お答えいたします。口蹄疫を後世に伝承するための日を制定してはということではありますが、口蹄疫が畜産農家だけでなく、県全体の産業に多大な被害を与えた事実を後世に伝承していくことは大切なことだと考えております。

ただ、今回の被害は、当町のみでなく、西都、児湯地域を中心に県全域に及ぶものであり、県の復興方針の中で壊滅的被害を象徴するシンボリックな拠点整備や口蹄疫に関する各種情報の発信、資料等の展示などが計画されており、その中で後世に伝承されるものの検討を行う提案はしてまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。口蹄疫の伝承ということなんですけども、口蹄疫の悲惨さ

や何の意味なく殺処分された家畜に対し畜魂の碑が設けられましたが、後世に伝承するために、小学校高学年、あるいは中学生による口蹄疫で被害を受けたあらゆる職種からの聞き取り、取材を行い、それを冊子にまとめ、後世に伝承することは、学校においても、また児童生徒においても大変大きな意義があるのではないかと考えますけどもいかがですか。

○議長（山本 隆俊） 教育長。

○教育長（萱嶋 稔君） 教育長。口蹄疫を、次世代にどう伝えるかとお尋ねですけども、今回の口蹄疫の災害から得た教訓を町内のそれぞれの各学校が、今後の教育活動に活かしていくということは、つらい経験をした高鍋町だからできることであるというふうに思っておりますので、大変大きな意義があるというふうに考えております。

もう既に町内の学校によりましては、愛情かけて育てられたその牛を一遍に失われた畜産農家の方を学校にお招きいたしまして、特別授業等も行った学校もございます。

また、教育委員会といたしましては、今後、現在小学校の社会科の副読本を、新しい指導要領の全面実施に向けて改定作業を行っているところなんですけども、その中で口蹄疫の恐さや被害の状況、あるいは関係者の協力、努力などについて取り上げていくことも考えているところです。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。やっぱり自分の足で運んで、そして自分の聞きたいものを聞いて、それを一つのこの文章にまとめるということが、私は心の中に残ってくるんだろうなあと思うんですね。ただ聞くだけでは残らないと思いますよ。だから、そういった意味で、きちっとした取材マニュアルなるものをつくって、そして、それにのっとってきちっとという形で取材をしていただければ、これは本当、後世に残る大きな宝になるんじゃないかなというふうに私は考えますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それと、教師の資質向上についてということなんですけど、学舎の――要するに学校の建物ですね、学校の建物があるところが学校というとらえ方から、地域全体、町全体が学校というとらえ方であれば、私は教育の効果が片っ方では上がるのかなと思います。教える側と教えられる側で成り立つのが授業であるわけですから、私は、教員が外部の第一線で活動、活躍を続けてる人たちから人材育成のあり方、または人生観などの意見を戦わして、そして自己の内面をさらけ出し、打ち合い、差異を見つめ受け入れることで人間性の向上があるのではないかと考えます。

現場で、生きた学問や知識、あるいは知恵を学ぶことにより、教職員の資質の向上がつつながり、子供にもより新鮮で希望あふれる授業、指導が助言できるのではないかと考えますけどもいかがでしょうね。

○議長（山本 隆俊） 教育長。

○教育長（萱嶋 稔君） 教育長。子供たちを取り巻く環境は、本当に大きく変化しております。学校が求められている機能とか役割は、本当に高度化、複雑化しております。こういう中で、教職員も多様な資質や能力が求められるようになってきております。

只今お話にありましたように、社会現場での生きた学問や知恵を学んで、幅広い社会性や人間性を向上させることは教職員の資質向上において大変重要であるというふうに考えております。このことは、先ほど説明いたしました県の教職員人材育成プランの中でも重視されておりまして、福祉等の社会体験や異業種間の交流、あるいは企業等の体験等、社会人としての幅を広げるための研修が掲げられております。

高鍋町教育委員会といたしましても、先生方に地域に対する理解と教育に対する情熱の高揚を図るための研修を工夫するなどして、県のプランと連携しながら、教職員の資質の向上に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。子供にとって、最大の教育環境は先生方なんですね。だからそういった意味で先生方の資質の向上が、私は子供たちの将来につながっていくのかなというふうに考えます。

次に、町道整備についてであります。中島小丸出口線のスクールゾーンの整備計画は、年次的に進めるということで、昨年12月に答弁いただきましたけども、それ以降、電柱の移設とか、地域への働きかけ、これはどのように進んでいるのかお伺いします。

○議長（山本 隆俊） 建設管理課長。

○建設管理課長（芥田 秀則君） 建設管理課長。中島小丸出口線につきましては、電柱の移設、また地域への働きかけにつきましては、具体的には行っておりません。県へ補助事業で相談しましたところ、維持管理の範囲であるとの見解でございましたので、単独事業により計画してまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。権現前線の側溝の素掘り箇所、まだ素掘り箇所があるんだなというふうにちょっと感心したんですけども、ここは非常に排水に支障を来している状況ということで私も現場に行きましたけども、この対策というのは何か考えていらっしゃるんですか。

○議長（山本 隆俊） 建設管理課長。

○建設管理課長（芥田 秀則君） 建設管理課長。権現前線の水路につきましては、今年度、小丸川土地改良区により施工予定であると聞いております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。次に中川池下屋敷北線、この路線は幅員としては十分あるということでちょっと私も現場を見たんですけども、しかし、舗装部分が幅員が2メートルなんですね。おまけに、でこぼこで自転車や歩行者がつかずくなどの何か被害が出るという相談を受けたんですけども、このところ、どういうふうに考えなのか。また、地域からどのような要望が上がってきているのかお伺いします。

○議長（山本 隆俊） 建設管理課長。

○建設管理課長（芥田 秀則君） 建設管理課長。中川池下屋敷北線につきましては、口頭

では聞いておりますけれども、要望書による要望は出ておりません。しかし、事故等の報告も受けておりますし、現状も非常に悪く、維持補修では追いつけない状態でありますので年次的に計画してまいりたいと考えております。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。ぜひ、進めていただきたいと思います。

次に、竹鳩橋ですけれども、きのうも竹鳩橋についての質問がなされました。その中で、この格下げ、格上げ、これの何か基準となるものは何かあるんですかね。

○議長（山本 隆俊） 建設管理課長。

○建設管理課長（芥田 秀則君） 建設管理課長。基準につきましては、県のほうに問い合わせとかしておるんですけども、正式なはっきりした回答がまだ伺っておりません。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。この竹鳩橋の話は、本当、一步も前へ進めない。進まないのか、進めることができないのか。これちょっと私にもわかりませんが、しかし、この高鍋町としては橋が欲しいわけですよ。だったら話を前に進めましょうよというのが本当だと思うんです。ただ、できるかできないか、県が動かないとかいうことに、私はこの理由にならないと思うんですよ。だから、もう穴をこじあけてでも、この話は進めるという姿勢が、この竹鳩橋架け替えにつながっていくんじゃないかなと思うんですけども、この本当、話し合いが進まない理由、もう一回教えてください。

○議長（山本 隆俊） 町長。

○町長（小澤 浩一君） 町長。進まない理由と申されますが、これは国、県あります。高鍋町としては、先ほど、きのうですかね、17番議員に私が申しましたが、例えばという話もしました。

しかしながら、そこまで踏み込まなければできないのかということですね。制度的に、なかなか進まないということでございますので、私たちもただ頼むしか今のところ策がありません。やるなら町の財政を削ってでもやると。高鍋町の中に小丸川があるわけですから、そこまで踏み切らなければなかなかできないと。じゃあ、財政のカバーができるのかということをお今いろいろ話し合いながら熟慮しているところでございます。そういうことでございますので、御理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。墓地の現状ということで、私ちょっと訂正をお願い——ここに来て訂正はないんでしょうけど、坂本坂墓地の状況はということがありますけれども、坂本坂墓地というのはありませんので、これは坂本坂にある墓地の現状ということでお願ひしたいなと思います。

大型台風や大雨の影響で坂本坂にある墓地ののり面、これはのり面というよりも、断崖といった表現が私は当たっていると思いますけれども、平成17年の台風で崩れたと言われており、崩れたそばにある墓に影響が出始めております。担当課としては危険であるところ

にロープを張って危険回避をしておりますけども、この地元墓地管理組合との意見の交換、または危険を伴うこういった墓地に対する手当、これはどのように考えていらっしゃるのかお聞きします。

○議長（山本 隆俊） 町民生活課長。

○町民生活課長（三浦 敏君） 町民生活課長。坂本坂の墓地の状況についてでありますけれども、この墓につきましては管理組合がございませんので、個別に関係される方と協議させていただく形をとらせていただきたいと思いますと考えております。

以上でございます。

○議長（山本 隆俊） 2番、徳久信義議員。

○2番（徳久 信義君） 2番。ここの坂の下は町道坂本坂線、これ通っております。現場見てもらったらわかるんですけども、もうほとんど垂直に、このあるんですね。今後、大雨、そういった大型台風が来たら、またそういった崩壊ということにつながってくるんじゃないかなあと思います。非常にこれまた厳しい問題があるように聞いておりますけども、もうぜひ、そういった整備を進めていただいてほしいなあというふうに思います。

以上をもちまして、一般質問終わります。

○議長（山本 隆俊） これで徳久信義議員の一般質問を終わります。

これをもって一般質問のすべてを終わります。

○議長（山本 隆俊） 以上で、本日の日程はすべて終了しました。

本日は、これで散会します。この後、11時10分から議会運営委員会を行いますので、正副議長室にお集まりください。

午前11時00分散会
